多摩白門会　会報　第13号　平成30年8月11日
多摩白門会支部

「箱根駅伝」山登り　我、かく走れり

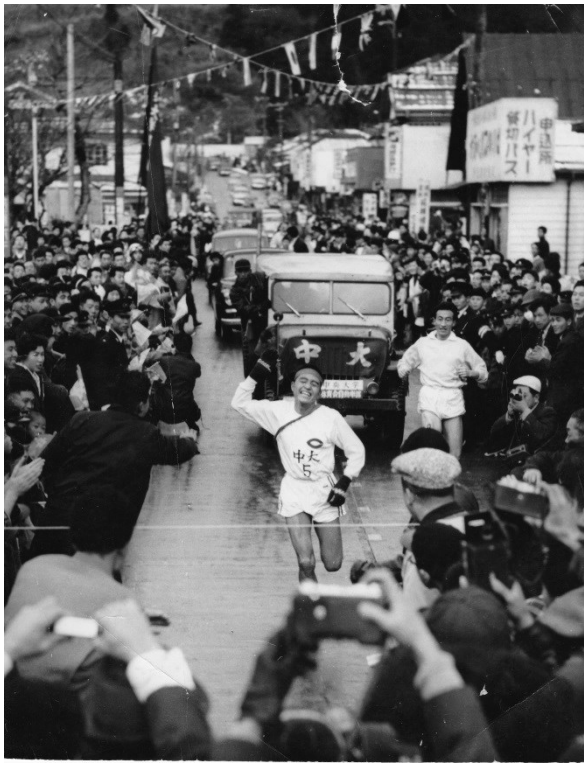
Ｓ３５年卒　金行　秀則

私は、子供のころから走るのが大好きで小中学校の運動会ではいつも一等賞をもらっていた。私の故郷、広島県世羅町は山や丘が多い起伏のある町で知られている。私はこんな村で育ったせいか山登りや走ることが好きになったと思う。中学、高校と陸上部に籍を置き毎日練習に励んでいた。特に広島県世羅高校は強く、駅伝大会では常に上位に名を連ねていた。

私は、昭和31年、中央大学に入学し陸上部に入った。当時は60名の部員がいた。監督は厳しい指導で知られる故西内さん。毎日、練馬から池袋まで往復20キロ走る。走り終わってもグランド整備、先輩たちの洗濯、マッサージなどつらい毎日であった。厳しい環境のせいか、部員も次第にやめるものもおり、半年後には30名と半数になった。それでも私は走ることが好きなせいか、練習に耐え、何とか頑張ってきた。

箱根駅伝大会2か月前、部員による記録会がある。ここで日ごろの練習の成果を発揮することができ、1年生としては良い記録で上位に入ることができた。この結果、監督から「金行君に難しい5区山登りコースを走ってもらう。お前は広島世羅の山猿で山登りのエースだ。走法も坂道に合っている」と言って指名を受けた。私はこのとき飛び上がるほど嬉しかった。

（2面につづく）



昭和３４年の箱根駅伝往路５区、１位でゴールインする金行さん

３０年度定期総会開かれる＝記事は２面に

「準会員制度」を承認

恒例の総会、講演会

本年度の総会は６月２４日（日）パルテノン多摩で開かれました。市民講演会では、中央大学経済学部阿部正浩教授より「人工知能（ＡＩ）やロボットとこれからの仕事」と題し講演をいただきました。参加者からは、時期に合ったテーマで内容も分かり易く大好評でした。総会では、大学生との交流促進と会の継続発展を考えての「準会員制度創設」の規約改正や事業計画等が承認されました。懇親会では、大学、学員会、三多摩各支部から御来賓の出席があり、４０名を超す参加者で会場が満席になりました。近況報告や元箱根駅伝走者の報告もあり、「今年も中大を応援していこう」と盛り上がった懇親会でした。

（写真は、懇親会を仕切った女性司会者＝佐藤愛子さん（左）と松尾あずささん）

＝＝＝

耳に残る「金行ガンバレ」の声

（1 面からつづく）

女将手作りの真綿のランニング

大会前日、監督から各選手に対しレースに対する注意とコース状況について説明があった。私に対しては、「とにかく自分のペースを守って走れ。箱根湯本までは無理するな」の指示を受ける。

1 月 2 日午前 8 時ちょうど、号砲一発、伝統の箱根駅伝参加校 15 校が一斉にスタートする。ボストンマラソンで優勝した田中選手、オリンピック代表の馬場選手を有する日大が優勝候補筆頭に挙げられ、わが中大は二番手候補であった。私は、5 区山登りランナーのため、小田原市内オリオン座映画館前中継所で待機している。その間、各区間でのレース状況についての情報が逐一入ってくる。私の走る箱根は雪が降っているとのことであった。このためか小田原の山本旅館の女将から、体が冷えると全力を出せないからといってランニングに真綿を縫い込んでくれた。本当にファンはありがたいものだ。

自分のペースで山登り

読売新聞社前をスタートして 4 時間 40 分後、4 区の上田先輩の姿が見えてきた。すでに日大の選手がタスキを受けて走り去っている。私は 4 区ランナー上田先輩からタスキを受け取る。これから 25 キロ、しかもほとんど山登りコースである。前日の監督の指示を思い出し、とにかく自分のペースで走ることだと自分に言い聞かせる。沿道には熱心な駅伝ファンが応援してくれる。特に合宿でいつもお世話になる宮ノ下の好楽荘のおばあさんの大声をあげて「金行ガンバレ」の声は今でもこの耳に残っている。

なんといっても山登りは疲労度がきつい。私は 10 キロ過ぎたころから足の運びが重くなってきたが、それでも 1 時間 32 分で走ることができた。結局、往路では日大に 5 分遅れの第 2 位で 1 日目は終了した。

箱根駅伝にランナーとして参加してからすでに 60 年くらい経過している。あの時の感激は私の心に強く刻まれ、今でもつい昨日のように思われる。特に箱根駅伝に出場できたのも世羅高校の先輩らに指導され強くなった。毎年、正月に開催される箱根駅伝大会は今でもコースに立って後輩たちに声援を送っているのである。

◇

編集部注　金行さんが 1 年生だった、この昭和 32 年、中大は 2 位だったが、34 年から不滅の 6 連覇が始まった。金行さんは 3 年連続で 5 区を走った。4 年生の 35 年は、盲腸炎のため出場を断念したが、この時、代わりに 5 区を走ったのが、駅伝の解説者の横溝三郎氏だった。中大の黄金時代の話である。

※この原稿は「東京走友会だより」（2005 年）に掲載されたものに加筆し、寄稿していただいたものです。

竹の節あるが如く

多摩白門会支部支部長 小林誠治

十曰。絶忿棄瞋。不怒人違。人皆有心。心各有執。彼是則我非。我是則彼非。我必非聖。彼必非愚。共是凡夫耳。是非之理。詎能可定。相共賢愚。如鐶无端。是以彼人雖瞋。還恐我失。我独雖得。従衆同擧。

上記は特記するまでもなく、十七条憲法の第十条である。母が法隆寺の学僧の書写したものとして参拝の記念に購入してくれた宝物の一つではあるが、何故かその学僧、「不怒人違」と書すべきを「不恕人違」と書写してあった。なかなかに意味深長なる誤写であると感じ入って数年間そのままに多摩ニュータウンのオフィスの一角に掲示憶念していた。しかし、やはり、熟慮の末、多摩白門会作品展の際に、その筆跡は稚拙であっても精神の真なるを尊ぶべきとの心意気から、十七条全文を自筆で書き改めた。

七月初めの炎天下、有為のテクノロジーが作り上げている冷房完備のオフィスビルを出て、不怒と不恕の想いを携え、すぐ近くの都立遺跡縄文庭園の風に誘われて、時を遡ることおよそ４５００年前に此の地に現存した縄文の復元されたほの暗い敷石住居の中に無為然と腰掛けて、狭い入り口から屋根に通り抜ける如何にも自然な森の風を体感しながら、「共是凡夫耳」「相共賢愚。如鐶无端」についてしばし想いを廻らす。

ここ数年、我が母校中央大学白門を厚く覆っていた暗雲と乱気流が徐々に凪ぎ、日出づる国の言にも似て東の空のようよう白くなりゆくさまを思い描くことができる。余韻を残しながらも、成長する竹の節あるが如く今日、我が母校は一つの強靭な節目を経過しようとしている。悲しみを経たるが故に格別に、誠に喜ばしい事態である。

様々の思いを胸に熟成数年、旨酒をここに封切り、ゆるりと飲み乾そう。

共是凡夫の学員諸君！　従衆同擧・乾杯！

＝＝

10/13　立川・昭和記念公園へ

駅伝予選を応援に行こう

今年の箱根駅伝予選会は、１０月１３日（土）例年の立川の昭和記念公園で開催される。

皆さんの“生”の応援が、本選出場のカギとなる。是非、応援に行きましょう！

＜前々回予選会は「涙の予選会」＞

前々回の予選会は「涙の予選会」としてマスコミを賑わせた。わずか４４秒差の１１位で、予選敗退、連続出場記録が８７で途切れたのだ。

＜前回予選会は「3位」通過＞

前回の予選会は再建を託された藤原新監督の指導力が早くも実を結び、なんと３位で通過。

＜今年の本戦は甘くはなかった、１５位＞

しかし、本選は甘くはなかった。往路は１０位と順調に滑り出したが、復路は懸念されていた選手層の薄さが露呈、総合１５位に終わった。

昨年の駅伝予選で、おそろいの白いジャンパーを着て応援する小林支部長夫妻ら多摩白門会員

＜今年はリクルートにも成果あり＞

今年は関西の強豪校から複数のトップランナーを獲得。歴史に残る予選会に残ること間違いなし！その場に一緒に立ち会おうではないか！　　（記：相澤）

卒業というステージのない人生の大学と学員

校歌三番の見直し――多摩白門会支部支部長　小林誠治

中大白門を慕い集える若人は「学生」であって、我々は既に「そこを去った者」である。誠に有り難い事にわが母校は、「入りて去った」我々に、他の大学では例をみない「学員」という真実（まこと）に適切な道の名を与えてくれている。誇らしくも我々はこの道の名を大事にしたい。

中央大学を数年に亘って覆った暗雲と乱気流は、全ての意識的な学員をして、そもそも「学員」とは何か、を自問自答する実践的な機会に直面せしめることとなった。確かに我々は最早中央大学という「場」にいない、中央大学の事どもは、中央大学の場にある諸氏に託すほかない。

さて、それでは我々は「如何なる場」に於いてあるのか？そして学員にとって「学」とは「如何なる学」なのか？この「場と学」を二契機として問い詰めることによって、われわれはいとも素直に「人生の大学」を直観することができる。

中央大学学員は、中央大学を卒業し、その場を去って、各々の縁に従って「迷中に行を立てる」が如くに「人生の大学」に入学した。全ての学員は、諸々の縁起の中で、場的には、少なくとも一隅を照らす主体的で、独立的な、終わりを知らぬ一人の自由なるL”homme であるという自覚からスタートしている。ところで、人生の大学においては、如何にも作為的で便宜的な「卒業というステージ」は最早ない。そこにあるのは全学員にとって例外なしの「生（死）のステージ」のみである。

人生の誠を「生かされて、働いて生き、生かしつつ、われら世にある誠なりけり」として定立するとすれば、「卒業というステージ」のある在来の大学は、ままになることが許されている「生かされてある」場における人生のいわば予備的段階の場としての大學であり、真の大學は「人生の大學」として「働いて生き、生かす」「世に在る誠の人たらんとする者」の場としてあることとなる。人生の大學を直観するとき、中央大学のみならず、在来の如何なる大學も「人生の大學」のいわば「予備校」に過ぎない。在来の大学が、「在来の人間の諸欲望」を解放することを課題とする在来の人間のルネッサンス(Renaissance de L’homme)を総括軸とするのに対して、人生の大学は今も、そしてこれからも「人生の解放」を課題とする人生のルネッサンス（Renaissance de La Vie）を総括軸とする持続的で行的で且つ知的な場として在り続けるだろう。

即ち「学員」はこの視座においては、働く営み即ち「業」、を修行の「行」となし、「行」を「学」となすことが日々要請されている者と規定できる。

ちなみに、『論語』の中から、「学」に始まり「君子」に終わる「学而第一」第一章の「学」に関する聖人中江藤樹の言説を参照してみよう。
『論語解』における【訓詁】冒頭に「学ハ覚ナリ、惑ヲ辨ヘテ本心ヲサトル處也」、また【句解】文中において「学問ハ小人ヨリ君子ニ至ル道」と語る。
この視座によれば、学員とは人生の大學に於ける「覚者ないし覚者に至らんとする者」と定めうる。

ここ数年、母校中大白門を覆った暗雲と乱気流は、「汝は、母校の命運を気に病むことなく、汝の場たる真の大學即ち人生の大學の誠の学員たれ！」との自覚を、結果として、意識的な全ての学員に力強く促してくれた。このことを心底より感謝しながら、ここであまり考えて歌われることのない中央大学校歌三番の意義をはっきりと確認したい。
……いざ起て友よ時は今、新しき世のあさぼらけ…、宇宙開闢Big bang の情熱をもって、太陽系天地という万物を育む宇宙サイズのハートの下で、且つ、汝の生死のステージの上で、展開される生命のルネッサンス、展けゆく自由の天地、校歌三番は人生の大学における誠の学員の担うべき使命のManifest Song ではなかろうか。
幼き者への愛、老いたる者への敬、そして汝自身には人生の誠を！愛・敬・誠のトリアーデ万歳！
Renaissance de La Vie！万歳！

「多摩と私」…白門会員　24 人に聞きました　1

特別企画として 多摩と私」をテーマに会員アンケートを行いました。多摩に住んだ理由」多摩のここが好き」子供のころの多摩」いつも散歩するところ」・・・テーマは何でもＯＫ。２４名の会員から回答をお寄せいただきました。結論として、多摩は昔も今もいいところのようです。あなたにとっての多摩」は？

桜ヶ丘にウサギがいた頃

S43 年卒　小林満起子

私は関戸４丁目の現在住んでいる所から大栗川を渡った森田自転車屋さんの上の方に住んでいました。そこは、桜ヶ丘が開発される前で、あたりは一体山でした。我が家の上はハイキングコースになっていました。

ある日雪が沢山ふり、あたり一面真っ白になった外を窓から見ていました。すると茶色の物がサーと走って行くのが見えました。なんだったのだろうと思っていたら、近所のおじいさんが兎を捕まえたので、兎汁にして食べると言っていました。私は、大泣きして食べないように頼みました。しかたなくおじいさんは、飼う事にしてくれました。ところが、人間の出す野菜、草、笹もたべません。そしてとうとう金網を破って逃げてしまいました。

緑豊かで住みやすい

S39 年卒　吉原　勇

私が多摩市に住み始めたのは昭和 54 年(1979)からである。小平に住んでいたが、取材で当時のミサワホーム社長宅を訪れ、桜ヶ丘が気に入ってしまった。そこで桜ヶ丘住民になったのが始まりである。

ところが雪が降ると動きがとれない。車で何度も危ない目に遭い、山を降りて落合に住むようになったのが昭和 60 年。以来住み続けている。この間、緑が増え環境が良くなってきた。

レコードによる名曲鑑賞のため女房と２人で6年ほど田園調布に通ったが「田園調布より多摩の方が緑が豊かでゆったりしていて住みやすいわね」と言うのが女房の口癖だった。今は亡き女房の声が今も耳に残っている。

連光寺で４５０年

S43 年卒　富澤政宏

私、多摩川で産湯をつかい、多摩村連光寺で育ちました。富澤家が連光寺に移住するようになったのは永禄年間（1558 年）とのこと。旧富澤家住宅(慶長 15 年建築）＝写真上＝は多摩センターの中央公園に移築されています。

この度、小場さんに代わり、事務局を担当することになりました。よろしくお願いします。

二小　ウサギとカメの物語

S45 年卒　相澤邦雄

私は多摩第二小学校の卒業生だ。但し、当時は多摩村立第二分校といって４年生までしかない４教室だけの木造校舎＝写真上。当時ウサギが飼われていて夏休み中は順番で、近くで摘んだオオバコを食べさせた。現在は新しい校舎となり＝写真下＝カメが飼われている・・・・『ウサギとカメの今昔物語』？

「多摩と私」・・・白門会アンケート　２

宝野公園の花見は最高

S37 年卒　宮坂　勇

昭和５３年多摩市に移住して来て４０年になります。自宅から徒歩１０分の宝野公園は毎年春、さくらの季節には花見を楽しんでいます。たまに孫たちも来て遊びます。

＜東屋＞の風景は絵にも描いています。冬の日、早朝に行くと＜東屋＞の反対側に雪景色の富士山もよく見えます。最盛期には芝の上にシートを一面敷き、宴会をして楽しんでいます。いろいろ各地で花見をしているが、宝野公園の花見が最高です。

隣のサッカー場は少年達がよくサッカーの試合をしています。次男が小学５年の時、多摩市内の小学校から２名ずつ選抜で第１期FC 多摩に選ばれて参加しました。翌年、東京都大会で３位に入りました。サッカー審判４級の資格を取り、よく少年サッカー試合で笛を吹いていた記憶が忘れられません。

今年の多摩白門会の春の集いで多摩の名所を巡り集合写真を撮ったのも宝野公園でした。

乞田川の桜並木

S45 年卒　小場宏二

多摩に来て、30 数年になります。公園、緑地、街路樹など緑が多い多摩の街が気に入っています。よく地図を片手に、近くのハイキングコースを散策したものです。

お気に入りは、多摩センターから聖蹟桜ヶ丘まで約 4km つづく乞田川護岸の桜並木です。すばらしい街だと思っています。これほどまでに、緑の多い街だと思って多摩を選んだわけではありませんでした。たまたまでした。でも、ラッキーだったと思っています。それと、多摩白門会とも出会うことができました。ありがとう。

桜ヶ丘駅で通勤楽に

S44 年卒　西村徳雄

京王線めじろ台駅からの通勤時、せめてこの駅から通勤できればといつも思っていたのが聖蹟桜ヶ丘駅。難題は多々あったが色んな点で、幸運に恵まれた。その時の売買時の司法書士が偶然にも小林多摩白門会長だった。

我、多摩を愛す……

S46 年卒　鈴木昭男（てるお）

あれから３０年…。私が多摩市民になったのは、平成元年４月１日。東京/目黒から３月末に引っ越し、長男・次男の中学校・小学校に転入学のための、住民票の異動手続だ。あれから３０年（来年からは、単純計算できない）。

自身のサラリーマン生活での勤務地は、西荻窪→大手町２丁目→下高井戸→上野→神田→大手町２丁目→同１丁目→新宿→本郷…。通勤時間は片道９０分もざら…。

当時、「働き方…」は話題にされることもなく、「健康で頑健」・「セブン➡イレブン」をすんなりこなせる社員が当然のように求められていた時代であった。

そのような中、幸いにも私は健康を損なうことなく、現在に至っている。その心のベースは「多摩ニュータウン・多摩市」。緑の公園都市である（写真は多摩中央公園＝鈴木昭男撮影）。ニュータウン地区に居を構えることが出来、とても有り難いことだと、いつも思っている。

長男・次男もすでに当市を離れ、「お二人様」となった。二人がたまに我が家によれば、常に「多摩の良さ」を語る。私もそうだ。

はっきりしているのは、彼らが来なくとも、「お二人様」でも「多摩は好き！！」。

・・・会員 24 人に聞きました　3

東西南北、交通が便利
S57 年卒　加藤　美和子

都心へのアクセスが便利なところ。私が子供の頃に住んでいた武蔵村山市は鉄道の駅が一つもありませんでした。モノレールが通った今も、横をかすめているだけです。その点多摩市は京王線・小田急線・モノレールと、東京を南北・東西に行くルートがあって、とっても便利で住みやすいです。

多摩ロードレース
H13 年卒　片寄由紀

多摩市といえば、私にとっては「多摩ロードレース」です！尾根幹線のアップダウンはキツイけれどもクセになり、2007 年に初めて参加してから毎年参加しています。調整がうまくいった年は入賞＝写真は 2015 年、5 位入賞時。左が筆者＝もして、賞状やトロフィーなどもいただき、次のレースの励みにもなりました。種目は 5km と 10km しかありませんが、このコンパクトさが気に入っています。転勤で今は多摩市在住ではないのですが、身体が元気なうちはずっと参加し続けたい大会です！

昔も今も・・・花の賑わい
S47 年卒　小島豊

桜ヶ丘駅前の田んぼの先は、向ヶ丘の崖線から山の上まで全山が桜で満開です。鳥獣実験場でキジを見学し、山道を登ると京王線随一の桜の名所聖蹟記念館です。入り口で木戸銭を払い、館内見学を終えると、茶店のおでんの匂いに誘われ、お花見客は大宴会の真っ最中。

現在は、鳥獣実験場は森林総合研究所連光寺実験林となり、ハイキングコース上の私の周囲もすっかり住宅地に替わりました。記念館の山に散歩をした時などにふっと昭和３０年台の喧噪を思い出します。

今は、記念館＝写真右上＝一帯は都立の桜ヶ丘公園になりました。３、４月には桜が咲き、新緑も葉を広げるごとに山の色を変え、５月に山つつじ、６月にはホタル、７月にユリの花、８月にキツネノカミソリやツリフネソウなど四季折々楽しめます。一度訪れてみてはいかがでしょう。

多摩市を出て 12 年
H12 年卒　鈴木純

多摩市から出て 12 年、勤務時は市内のあらゆる場所に行ったけど、今は聖蹟桜ケ丘の駅周辺しか行かなくなってしまった。他の地域はどうなっているのかな？

「白亜のお城」多摩センター
S58 年卒　岡崎理香

私が入学した昭和 54 年は、中央大学が多摩キャンパスに移転した翌年でした。京王線で通学していた私は多摩動物公園から徒歩でしたが、暗いトンネルを過ぎると目の前に広がる白い校舎が眩しかったことを覚えています。ある日小田急線通学の友人とバスに乗って多摩センターへと行ってみました。「多摩センター」というちょっと未来的な地名に惹かれて。野猿街道を延々と（そう感じたのです）。行ってみるとバスターミナル以外何もなく、目の前にはポツンとイトーヨーカドーが白くお城のようにそびえ建っていました。

このまちの育ちとともに、私も結婚し、子どもを育て、結構いい歳になりました。そごう（当時）でお買い物し、パルテノンで音楽会、おとぎの国のピューロランドで子どもと遊び、気持ちの良い公園を夫婦で散歩し、美味しいお店で食事する・・・。多摩センターは私にとっては「白亜のお城」です。毎日がお姫様、王子様ではなかったけどね。

「多摩と私」…白門会員 24 人に聞きました　4

緑の拠点ＧＬＣ

S47 年卒　渡辺幸子

多摩市グリーンライブセンターは私の好きな所です。パルテノン多摩事務局長時代、疲れた心がハーブの香りや水琴窟の音色に癒されました。四季折々の草花が手入れされた庭、また、緑を守り育てる人づくりの拠点として続いているのは、グリーンボランティア、恵泉女学園との協働運営の賜物です。

（写真は四季折々の花が咲き誇るグリーンライブセンター＝同センター提供）

関戸の田圃

S63 年卒　松尾あずさ

私の多摩の原風景は、かつて関戸一帯に見られた田圃です。祖父母が昭和３７年に「南多摩郡多摩村関戸」へ転入しており、そこへの途上、目にした稲穂、稲刈り機、脱穀機などは、団地っ子の私には印象深いものでした。

文化豊かな街　離れがたし

H13 年院修了　掛田智哉

1995 年の 1 月、18 歳の冬が多摩暮らしの始まりでした。まだ荷ほどきもできていない永山の自宅を後にして、ボランティア活動のため神戸に発った冬の朝を思い出します。あれからまる 20 年の間、多摩永山で暮らした日々がありました。

緑豊かで整然としたニュータウンでの暮らしは実に心地よいものでしたが、何よりこの街を離れがたく思わせたのは、多摩に根付く文化の豊かさです。市民劇団やビッグバンドの公演が日常の中にあり、そして、映像作家たちの登竜門たる「ＴＡＭＡ　ＮＥＷ　ＷＡＶＥ」を誇る街･･･。

進み続けるニュータウン住民の高齢化や人口減少が注目されますが、いままさに実験場となり、「文化」をキーにニュータウンが生まれ変わる先進モデルを全国に知らしめる潜在力が多摩市にはあると確信します。

町田に移って３年ほどが経ちましたが、公務員、社労士、行政書士の試験合格に加え、人生の伴侶とめぐりあう夢までかなえてくれた諏訪神社（諏訪 1 丁目）の神様にそろそろ御挨拶に伺わなければバチがあたるような気がするこのごろです。

多摩丘陵パノラマの丘

Ｓ47 年卒　円道敏秀

多摩ニュータウンの外周尾根には『よこやまの道』と呼ばれる緑地帯があり、東京近郊で人気のハイキングコースになっている。尾根の先には日本の原風景の里山が残っている。見晴らし台の『多摩丘陵パノラマの丘』からは大山～丹沢～奥多摩～秩父山系から富士も望める=写真＝。正月には初日が照らされるのを眺めて1年が始まります。

多摩から見える富士山

S50 年卒　小谷哲雄

都立永山高校の近くに住んでおります。犬の散歩でしばしば、自宅から近い多摩よこやまの道にある多摩丘陵パノラマの丘を歩きました。特に冬の天気の朝、丹沢山系の上に雪を頂いた真っ白な富士山が凛とくっきり見えます。一見の価値があると思いますので、訪れて見てください。

「多摩と私」・・・白門会員 24 人に聞きました　5

深呼吸ができる街
H11 年卒　岩永ひさか

都会の喧騒にまみれ、帰路につく。永山駅に降り立った瞬間、「このまち、深呼吸ができる」と思う。そして、空を見上げる。そして、「やっぱり、多摩市が好き」と思う。この住み心地の良さを残していきたい。

長い滑り台
S61 年卒　井上英樹

幼稚園の頃、平山城址公園に良く遊びに行きました。なだらかな丘陵地帯を駆け回り、オニギリを頬張り、傾斜を利用した長い滑り台を何度も何度も滑ったことを思い出します。あの滑り台、今でもあるのでしょうか？

歩車道分離、安全な街
S45 年卒　大井幸夫

3 人の子供はニュータウン生まれ。団地内の公園で遊び、自転車や一輪車で走り回っていた。当時、鶴牧から永山まで、子供だけで遠出したものだ。団地内の道はすべて歩車道分離されていて、交通事故の心配なく育児できる安全な街だった。

多摩に住んでよかった

S28 年卒　村上邦彦

その１　昭和 14 年（1939 年）、大森区山王、入新井第 3 尋常小学校 3 年生。その年の遠足。川崎で南武線に乗り換え、電車は多摩川の右岸を北へ。「多摩聖蹟口駅」で下車。元気な少年少女たちは、林の中のちょっとした山登りを繰り返して丘陵の上に、そこに立派な建物がありました。多摩聖蹟記念館。その外部回廊の円柱の前、階段に座って撮った記念写真。それが昭和 20 年（1945 年）4 月、上目黒 8 丁目で空襲に遭って焼失、今、私の手許にないのは残念です。

入居開始後の永山団地＝1971 年 3 月／田中ちひろ氏撮影・公益財団法人多摩市文化振興財団提供

その２　やはり昭和のある年、おやじの会社のこれも遠足。新宿 3 丁目「追分だんご」の少し先に京王電車の新宿駅がありました。暗い大きな倉庫のような建物の中から、明るい甲州街道に出た緑色の電車。しばらくはコトコトと路面を走って西へ、西へ・・・。何処の駅で降りたのか覚えていないのですが、あたり一面広々とした緑の田や畑。その光景は、まさに田園交響楽の世界。ゆるやかな多摩丘陵の佇まい、青空の下、遠くに奥多摩の山なみ、その後何度も登ったことか、大岳山、御岳山の姿が眺めの中にありました。多摩川の清流を、大きな木の橋で渡って対岸へ、関戸橋という名前の。

その３　昭和 46 年（1971 年）多摩ニュータウン誕生。親子 4 人で杉並区方南町から、出来たばかりの永山団地へ越してきました。「太陽と緑のまち多摩へ」そう言って迎えてくれた富澤町長の言葉が今もなお印象に残っています。「陸の孤島」、その頃の新聞にうたわれた（？）そこは開発されたばかりの、建物だけ、道路も公園も全く整備されていない別天地・・・。それから今日に至っているのですが、東京都内見渡して、このように自然に恵まれ、ミドリの多い街は今でも他にありません。多摩に住んでよかった、私はそう思っています。

今朝も、小鳥たちがたくさん飛んできて芝生の上でせっせと何かをついばんでいる。その横をカマキリが、そしてトカゲがさっと走って草むらに消えていく。蝉の声がひとしきりにぎやかに聞こえる暑い夏が、今年もやってきました。

「多摩と私」・・・白門会員 24 人に聞きました　6

私の多摩での生活

S35 年卒　河辺　裕

父の健康上の理由から昭和６４年に調布より現在の日野市へ移りました。高台ではありますが坂道は大変です。それまでの調布は、生活の利便性からは最高でした。

日野市での生活もそこそこ良さを感じるようになりました。２世帯住宅にリフォームし、両親、女房、２人の娘との生活が続きました。娘たちも多摩での生活はまんざらでもなさそうで、２人とも八王子の共立女子から大学は東京女子大と多摩で過ごしました。その後、上の娘はハワイ大学へ、下の娘は三井物産へ入り、社内結婚。現在は成城暮らし・・・。

でも私は疲れました。現役は営業で酒、マージャン、都内からの深夜タクシー、地方支店への出張、Golf 等々。又、満員電車の通勤は悲惨なものでした。今でも時々夢に出てきます。

ちょうどその頃、私の会社へ取引の関係から一級先輩の花塚氏と出会い、縁あって多摩白門会へ入会することになります。

私も現役を退き、多摩人として地についてきました。好きな園芸で、多摩園芸友の会で副会長を庭園技能士の資格､そして庭に温室を作り、ランの栽培などを始めました。又、日野市美術連盟（１３０名会員）の会長を２期、三多摩健康友の会日野支部長２期(会員１７００名会員)、銀の会、楽画会、共に絵画クラブ幹事、ハワイアンバンド（鵠沼、日野）リーダー、２級船舶免許を山中湖試験場で取り、仲間で大型クルーザーをやったりしました。日野市からは“文化事業功労”の賞を受け、現在は文化協会副会長を拝命しております。

今秋には、上野の美術館へ出展すべく、大型版８０号を作成中であります。

多摩市は終の棲家

S31 年卒　大津山壽久

多摩市に転入し早いもので 34 年になる。子供２人とも旧西落合中学（現市立図書館）の卒業生だ。孫を連れて遊びに来ては「学校に通わせるのに信号を見なくてもよかったのに隅田は信号だらけ」と。

その母校跡が桜美林小中学校になるとか、想い出を奪われる子供達は可愛そうだ。誰だ！こんなこと決める奴メ。公立は次々減らしながら。

ニュータウン建設に当たった友人によると「右肩上がりの時代に贅を尽くした街である」という。それなのに、「多摩市ＮＴ再生に関する検討会議報告書（H26 年３月）」を見て驚いた。もう再生とか？。早過ぎないか。

隠居の身にとっては月日の経つ速さはただただ驚くほかないが、行政担当当事者の、憂卿の情には「ヒトツヨロシクお願いします」としか言いようがない。いくら市民が主役と云われようが。「大事なことは市民が決める」調子のいいこと言いやがって。！

出身の肥後の国には 18 年しか居なかったのに、故郷の蛍の源平合戦や、大水で橋が流され上流から流れてきた材木を拾い、先輩に褒められた、そんな郷愁が一杯詰まっている。

いま、孫を見るにつけ、子供の時からやれピァノじゃ、クモンじゃと。

水泳なんて教えてくれたのは悪ガキの先輩だった。泳げないのに投げ込まれながら鍛えられた。もっとも、隣村の奴との喧嘩に明け暮れた故郷。いまやすべて、親友となったが

旧制中学での想い出は、尽きない。

しかし、その故郷には想い出はあるが帰れない。なぜなら故郷には孫はいやじゃという。それより此処を「終の棲家と決めた」だ。ここで骨になろう。コンガリ焼いてほしい。了

83.5歳　長寿トップにオラガムラ　――S35年卒　平賀　慶暉

最近筆者の居住区（多摩丘陵をバックにしているせいか､「ヨコハマのチベット」と言われていた）が､昨年度長寿全国トップになったと報道された。これは男性シニア年齢の平均値のことであり、女性は伝統的に沖縄で変わらずで、男より数歳上の数字だったので　何故かホッとした。元気年齢持続度で女性が、断然上位なのは何故かについてはＮＨＫのチコちゃんに聞いたら分かると思う。２０年ここに住んでいる同年輩者としては、なぜこうなったのか？思いつくまま呟いてみたい。

まず、シニア人生の目的を　一言で　健康年齢持続（ＰＰＫ）として見る。

２０年前、川崎市の山の手とも称される麻生区に退職移住して、医療生協メンバーとなり、ホームドクター設定､若い女性医師の指導下にはいる。予防医学、入院から在宅へ、医薬介三位一体の社会環境への潮流を信じて､医食同源とかＩＴ 利用の高度医療の知識もインプット、理想の医療モールの到来を待つことにした。

次にヒトは歩くイキモノだ。故に歩け一歩めと次のような実践の継続に乗り出す。日常生活に必要な駅、郵便局、各種文化施設等を徒歩圏内として、息子家族と３世代住宅をつくり、仔犬も入れて、朝夕歩くことから始める。７０歳での運転免許返上は、孫５人を乗せないでとの勧告的意見を受けての苦渋の決断｡「風邪を引いたらドライブしてクリニックへ」との諺をフイにした。バス敬老割引券持たずとして来たがこの夏はきびしいかも。

１．ラジオ体操；４０年前、イラクに単身、ＮＨＫテープカセット携帯で赴任。手旗信号？と秘密警察に疑われた。今ではカセットコレクター。レトロ感大。毎日１５分整体用かな。

２．ポチは戦友；互いに腹時計　バイオリズムから逃れられない３５年間となっている。５代目のマルチーズは「歳男」　居眠りが得意技（在外では番犬兼ペット、盲導犬２頭在宅育成各１０ヶ月に協力したり）。

３．太極拳；ソニージムで盛田元会長の師だった在ＮＺ中国人に呼吸法として３年間教わり其後２５年間。今は拳から剣を中心で間もなく扇に移る予定。頭頂から足裏までの無数の呼吸孔を通して気と血液循環をゆるりと行うのが極意。

４．リラックスするのが最強の手段；シニアの痛痒は世の常であり、それを意識しないようにカバーするのも一手だ。例えば、温泉粉浴。在外２０年間も土産に日本各地のこれを貰ったりして持続出来た。カラフルな温泉をエンジョイできる。音楽会とかＣＤとかリラックス部門の投入も重要。ゴム紐「ながら」体操もＴＶ、ラジオなど聞きながら幅広のゴム紐を首、肩、背中、足腿にしっかり巻いて動かすと気持ちよく解れる。蜂蜜マヌカハニーを軽いキズや口腔や歯茎などに塗って甘さにほっこりもいい。

５．クスリは処方されたのを結果半分程度。サプリは自己中でＯＫ。腹のアンバイがよからぬ折、飲み食い過ぎの反省時には、中央大学と赤く染め抜かれたタオルを腹に巻いて寝る。

囲碁倶楽部、善戦の 30 勝 30 敗

囲碁倶楽部は昨年３月に発足しました。５月からは多摩稲門会と多摩白門会で月例交流囲碁会を開催して今年４月で一年になりました。多摩稲門会からは８段、７段、６段、５段、３段の強豪が交互に入れ替わり参加して来ました。一方、多摩白門会は最強が７段（下）、６月から参加の２段（中島）、初段（吉原）、１～２級（宮坂、村上）が参加対局してきました。

この一年の対戦成績は３０勝３０敗と善戦しました。今後も多摩白門会 VS 多摩稲門会の月例交流囲碁会を通して切磋琢磨精進していきたいと思います。（敬称略）

世話役・宮坂　勇

多摩白門会と green bird

green bird 中央大学チーム

法学部法律学科 3 年　高本皓平（たかもとこうへい）

暑い日が続きますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

green bird は、清掃活動（ごみひろい）を主な活動として、東京・表参道を発祥に世界 10 か国以上に約100の支部を構えるNPO法人です。そして、その支部の１つが私共中央大学チームです。多摩地域では、月１回の清掃活動を通じて地域間の交流の場づくりをしつつ、地域や近隣大学生の方々との交流を深めています。

また、この多摩白門会とは月一回の懇親会を通じてお世話になっており、毎回、そこにいらっしゃる方々の豊富な経験や様々な見地からの議論・アドバイスは学生の私には驚かされるばかりです。今後とも、green bird 並びに中央大学チームをよろしくお願いいたします。ホームページなども見て頂けると嬉しいです！

（写真は、多摩センターで清掃するグリーンバード中央大学チームのみなさん＝ＨＰから）

（http://www.greenbird.jp/team/japan）

****

第 8 回作品展は 9/11―9/16

今年で第８回目となります“ 多摩白門会作品展 ”を９月に開催します。多くの会員の皆様の作品とご来場をお待ちしています。

■ 会期:平成 30 年 9 月 11 日(火) ～16 日(日)
■ 会場：多摩市永山公民館ギャラリー
■ 作品の募集内容：
油彩・水彩・アクリル・パステル・ 写真・書・陶器・彫刻・手芸・生け花・その他

会費（￥3,000）納入のお願い

本年度の会費の納入がお済みでない方は、次の方法で納入ください。

納入方法
①ゆうちょ銀行払込票による。
②銀行振込　三菱ＵＦＪ銀行多摩センター支店（支店コード 591）

普通 1389310　多摩白門会会計　大井幸夫（おおいゆきお）

③事務局に届ける。

編集後記

トップ記事は、かつての箱根駅伝山登りランナー金行秀則さんの「我、かく走れり」。読み応えのある読み物になりました。中大 6 連覇の一翼を担ったＯＢですが、本会では新人です◇アンケート「多摩と私」には、総会員の 6 分の 1 にあたる 24 名の方が参加、「みんなで作る会報」に一歩近づいたような気がします。今後ともご協力のほどを（O）

発行:多摩白門会

多摩白門会連絡先
支 部 長　小林誠治　☎042-375-7104　seiji-kaigen@nifty.com
幹 事 長　小島　豊　☎042-375-6557　hataya@indigo.plala.or.jp
事務局長　富澤政宏　☎042-355-7098　Masahiro.Tomizawa@nifty.com